

(1) 予算案の考え方

～直面する危機を克服し、未来を拓く“再スタート予算”～

令和3年度当初予算は市長就任後、初めての当初予算編成となります。市民の方々の様々なご付託に応えるべく予算を編成する事を念頭においておりますが、昨年11月に奈良県より令和元年度の宇陀市の財政運営に対して「重症警報」が発令されました。このことは看過できない事態であります。早急に県と連携して財政改善の対策に取り組めます。このため、令和3年度当初予算は令和2年度当初予算と比較して、予算総額、市債発行予定額、財政調整基金の繰入予定額をいずれも縮減した緊縮型予算といたしました。このような中、新型コロナ禍による市税の減など一般財源の確保には苦心をいたしました。臨時財政対策債を含む普通交付税の一定額の確保や、ふるさと応援基金を有効活用するなど必要な財源確保に努めました。緊縮型予算ではありますが、宇陀市の将来の安心・発展につながる事業へ種をまき、水をやる予算は計上いたしました。

新型コロナウイルス感染症につきましては、令和2年度の国の第3次補正予算をうけて令和3年度当初予算において、喫緊の課題として対応いたします。住んで良かったといえる暮らし、経済活動の活性化に向け、まちづくりに着実に取り組んでまいります。

以上の結果、一般会計予算案の総額は、前年度の当初予算額との比較で約36億2千万円減の181億6千万円といたしました。なお特別会計をあわせた宇陀市の予算総額は358億4千万円であり、前年度と比較して31億8千万円減となっています。